

アーティスト・イン・レジデンス in 益子 Artist in Residence in Mashiko

2025秋

回覧

イタリアのフィレンツェより陶芸家マリア・ラマンナ氏を公募作家として迎えます。植物由来の灰釉に焦点を当てて自ら制作し、高温釉薬の分野における研究を行っています。これまでのデザインとアートのバックグラウンドから有機的かつ開かれた美学を通して、陶芸の可能性を探究していきます。

マリア・ラマンナ Maria Lamanna

【陶芸家・イタリア】

滞在期間: 10.16 THU - 12.18 THU



関連イベント Events

オープンスタジオ / Open Studio

10/25 (土), 11/7 (金) 14:00~16:00

【場 所】陶芸工房 (益子陶芸美術館 敷地内)

ワークショップ / Workshop

11/16 (日) 14:00~16:00

【場 所】陶芸工房 (益子陶芸美術館 敷地内)

展覧会 / Exhibition

12/6 (土) - 14 (日) 10:00~12:00 / 13:30~16:00

【場 所】益子国際工芸交流館

※12月6日(土)は13:30よりオープン、12月8日(月)は休館

ギャラリートーク / Gallery Talk

12/6 (土) 14:00~16:00

【場 所】益子国際工芸交流館

※関連イベントはいずれも無料、予約不要でどなたでもご参加いただけます(通訳あり)。
詳細についてはSNS等でお知らせします。





アーティストのメッセージ

私の陶芸家としての道は、30代後半に家族と共にイタリア・フィレンツェへ移住したことから始まりました。夫と2人の子供と共に移住したことは家庭の事情によるもので、それを機にファッションアクセサリーデザイナーとしての仕事を一時中断し、美術アカデミーへの入学を決めました。この選択により、以前の仕事に戻ることはありませんでした。

2022年以降、私はさまざまな地域で収集した自然の要素から抽出した独自の釉薬を用いて、陶芸の可能性を探求しています。この実践は、風景との親密な対話に根ざし、予期せぬものを詩的かつ様式的な価値として受け入れる、開かれた美学の構築を目指すものです。

私の芸術的な意図は、自然的・人類学的要素を体系的に収集することで、「アトラス(地図)」のように記録を構築することにあります。その過程では、関係性や交換の意義を重視し、これらの要素が最終的な作品に不可避的に与える影響を強調しています。なぜなら、作品の真の価値は結果ではなく、試みそのものにあると考えているからです。

私は、益子陶芸美術館でのレジデンス体験は単なる作品制作にとどまるべきではなく、研究と交流、傾聴と対話の機会を含む、変容的なプロセスであるべきだと強く信じています。このプロジェクトは自己肖像の探求でもあり、それは単なる表現ではなく、多様な社会的・文化的文脈との対話を通じて、常に変化する自身のアイデンティティを自覚していく過程として捉えています。

マリア・ラマンナ

Artist Message

My journey as a ceramist has started in my late 30's, moving to Florence, Italy, with my husband and my two kids for family reasons I took the opportunity to pause my work as a fashion accessory designer and decided to enroll at the Academy of Fine Arts, to never go back to my previous job.

Since 2022 my work explores the potential of ceramics through the creation of self produced glazes derived from natural elements collected in different areas. This practice, rooted in an intimate dialogue with the landscape, aims to construct an allusive aesthetic that strives to remain open to embracing the unexpected as a poetic and formal value.

The artistic intention is to build an Atlas, considered as systematic collector of natural and anthropological elements, distinguished for the relational and exchange meaning, highlighting the inevitable influences that these elements have on the final work, considering that the real value of a work lies on the attempt, not on the result.

I strongly believe that the residency at the Mashiko Museum experience should not be limited to the production of works, but should constitute a transformative process: an opportunity for study and exchange, listen and discuss. For this reason, the project is also an exploration of self-portraiture, understood not as a representation, but as an awareness of one's own ever-changing identity, in dialogue with diverse social and cultural contexts.

Maria Lamanna

略 歴

- 2013-2019年 マリア・ラマンナ・ハンドバッグとして活動
- 2015-2022年 フリーランスのレザーアクセサリーコンサルティングデザイナー
- 2022年 フィレンツェ美術アカデミーにて装飾学士号を110/110の優等で取得、陶芸家となる
- 2024年 コーヒーブレイク美術館にて特別賞受賞
第XXI回メディテラネオ・グロッタグリエ・コンペティションのファイナリスト
グループ展「メディテラネオ」
個展「植物園と陶芸釉薬の芸術」
- 2025年 サヴォナ陶器美術館にてアーティスト・イン・レジデンス

C V

- 2013-2019 Maria Lamanna Handbags
- 2015-2022 Free-lance leather accessories consulting designer
- 2022 Bachelor's degree in Decorazione at the Academy of Fine Arts in Florence with the vote of 110/110 with honors, Ceramist
- 2024 Coffeebreak Museum, special mention prize
Finalist at the XXXI Mediterraneo Grottaglie Competition
Mediterraneo, group exhibition
Solo exhibition "Botanical Gardens and the art of ceramic glazes"
- 2025 Artistic residency at Museo della Ceramica Savona

アクセス：[バス]東武宇都宮駅、JR宇都宮駅西口14番バス乗り場から関東バス益子行、またはJR秋葉原駅から茨城交通「関東やきものライナー」笠間・益子行で益子陶芸美術館入口下車徒歩2分。【鉄道】JR小山駅から水戸線下館駅下車、下館駅から真岡鐵道で益子駅下車徒歩25分。【自動車】常磐自動車道友部JCT経由、北関東自動車道桜川(筑西IC)から20分。東北自動車道栃木都賀JCT経由、北関東自動車道真岡ICから25分。



企画展

松崎健 一窯艶 健の陶表現ー

2025年10月5日(日)ー2026年1月12日(月・祝)

2階展示室 スポットライト：宇佐美朱理 記憶された想い

2025年10月28日(火)ー2026年1月12日(月・祝)



HP



Instagram



益子陶芸美術館

Mashiko Museum of Ceramic Art

〒321-4217 栃木県芳賀郡益子町益子3021

TEL.0285-72-7555 FAX.0285-72-7600

ホームページ <http://www.mashiko-museum.jp/>

最新情報はFacebook、X、Instagramで発信します。📱 X 📷